

ひがし 57/4/20

No. 257

広報 しらかわ

人口の動き

— 3月末住民登録人口から—

世帯数	929世帯
人口	3,714人
転入	38人
転出	63人
出生	4人
死亡	4人

先月と比較して25人減
 昨年と同月と比較して20人減

■発行 東白川村役場 ■編集 東白川村役場総務課 ■住所 〒509-13 岐阜県加茂郡東白川村神土548番地
 ■☎057478 3111・内線34 ■印刷 益田郡下呂町 下呂印刷有限会社



青年団員ら照明取り付け

4月11日、越原青年団員ら8人が出て小谷の桜に電球を取り付けました。夜桜をみんなに見てもらおうと、開花期を前におこなっている恒例の行事で、当日は郵便局前から越原運動場前までの間に30個余りの照明用の電球を取り付けていました=写真。



— おもな内容 —

- 村づくりアンケート第2弾の結果……………P2~4
- 消防団入退団式……………P5
- 新年度の予算……………P6~8
- 各種利用料などが上がりました……………P9
- 春の教職員人事……………P10
- 新年度役員決まる……………P11
- 村誌「通史編」できる……………P12
- けいじ板はP4~5の下欄

主役はみなさん自身です——

村づくりアンケート：第2弾



集落ぐるみの共同活動なども、村づくりのために、今後ますます大切な行事となってきました。写真は下、上親田共同での道なおし作業

四月十一日村道上親田線で

村づくり推進活動の資料に

昨年暮れ村がおこなった「村づくりのためのアンケート調査II」の結果が、このほどまとまりました。今回の調査は、昨年打ち出した村づくり総合計画を村民総ぐるみの理解で推進する方策を見出す資料にするもので、昭和55年に農家対象に実施した調査（広報ひがししらかわNo. 242参照）に続く第2弾です。新しい村づくりの主役はみなさん自身だということのを再認識していただくため、村内全戸のみなさんにご協力いただきました。全体的なまとめは、すでにみなさんのお手元へ届いていると思いますので、それとあわせてご覧ください。

調査の方法

回収率は
69・66%

アンケートは、村内全世帯（九百三十六世帯）を対象におこなわれました。昨年暮れに組長さんを通じて配布していただき、ことしの一月末日を期限として、各組の村づくり推進会議委員のみなさんに集めていただきました。

その結果、回収数は六百五十二、六九・六六%の回収率でした。

四つを柱に 十五の質問

調査の内容を大きく分けますと▽集落の年中行事▽集落の共同活動事業▽集落の集会▽地元地区の中で困っている場所、よい場所——の四つで、これを柱としてそれぞれに関連した十五の質問で構成されています。

「参加する人」は92・7%

組主催の年中行事

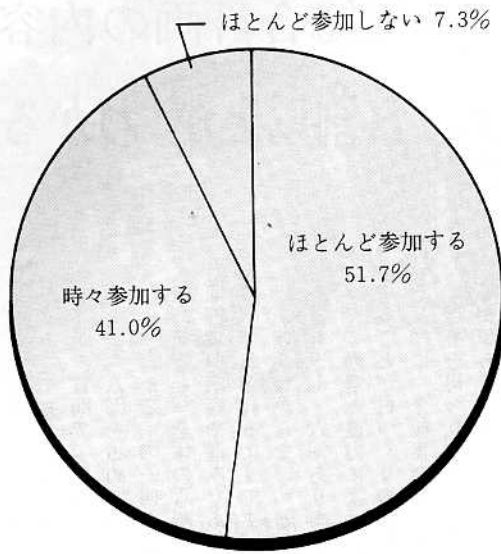
最初に集落での年中行事、たとえば新春互例会、祭り、スポーツ行事などにどれくらい参加されるのかおたずねしました。「ほとんど参加する」「ときどき参加する」と、多かれ少なかれ参加する人が九二・七%を占め「ほとんど参加しない」は七・三%です。

また「参加する」に関連して出席する人をたずねた問いに対し「世帯主」がいちばん多く七五・二%、次いで「妻」と「後継者」が同率（二一・一%）で並んでいます。

半数近くが「祭り残したい」

「年中行事で今後も残したいものは……、またあつたほうが

集落主催の年中行事への参加



8割超える「ほとんど参加」

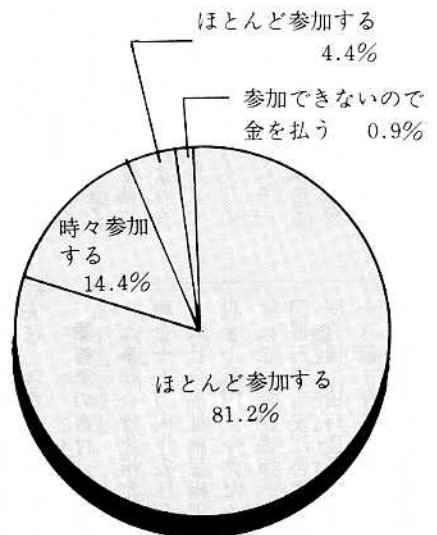
共同活動事業

よいと思われるものは……」の問いでは「春祭り」と「新春互例会」が一九・九%でトップに並び、以下「ソフトボール」一七・三%、「秋祭り」一六%、「夏祭り」一〇・三%と続いています。

とくに春、夏、秋の祭りをあわせるると全体の半数近くを占め、今後も受け継いでいきたいという意図がうかがわれます。

集落での共同活動事業（用排水路の清掃、道なおし、除雪など）に関する問いで、その参加についてうかがいました。「ほとんど参加する」がいちばん多く八一・二%、「ときどき参加する」一四・四%で、年中行事と同様ほとんどの家庭が集落の共同活動に参加しておられ

集落の共同活動事業への参加



開催・終了時間の検討を

集落での集会

各組主催の集会への参加についてたずねた問いでも、多かれ少なかれほとんどの家庭が参加されるといふ結果です。参加する人も「世帯主」が圧倒的に多く八五・二%を占めています。「集会を充実させるためにとくに必要な事項は」の問いに対し、いちばん多かったのは「発言」で一九・三%でした。そのほか「開催時間」二六・五%

という結果です。出席する人も同じような傾向になっており「世帯主」が八〇%を超えています。恒例として続ける事業、また新規にやつたほうがよいと思う

ものを聞いてみました。四分の一にあたる二五・一%が「道なおし」そのほか「除雪」二〇・九%、「交通安全」一〇・九%、「施設の清掃」一〇・七%——などの答えがありました。

「時間」一五・九%「運営」一四%「資料」九・二%「集会場」九%と、おもな事項が続いています。

また、少数意見ですが「班単位で集会を——」「協議事項を少なくする」などの声もあります。この質問では、集会の内容もさることながら開催と終了の時間を重視している人が多いようです。今後各集落で検討の余地がありそうです。

消防団入退団式

安江正彦さんら16人が退団 新体制で村の守りにつく

三月二十八日、昭和五十七年の東白川村消防団入退団式が、総合運動場でおこなわれ、長年村の消防団活動に貢献された十六人が退団され、これにかわって新しく十六人が入団しました。式では、退団者に村長から記念品と感謝状が贈られ、長年の

ご苦労をねぎらうとともに、その功績をたたえました。新しく消防団員として今後村の防火、防災にご苦労いただく新入団者へは、桂川団長から辞令が交付され、入団者代表の安江正彦さんが力強く宣誓しました。



長年消防団活動に尽くし退団されるみなさんへ村長から感謝状と記念品が贈られました

また、新年度の幹部構成も決まり、桂川団長以下百九十人の新体制で村の守りがスタートしました。

入退団者および新年度の幹部構成は次のとおりです。

〔敬称略〕

〔退団者〕

▽分団長—安江正彦、安江計幸
栗本忠一、安江哲男▽副分団長—田口洋児、安江純熙、三尾清行▽部長—村雲光好、安江龍次、安江勇、伊藤宏行、安江建夫、安江光昭、栗本保彦、安江富夫、安江時信

〔入団者〕

▽本部—安江宏
▽第一分団—安江正孝、田口喜章、村雲清人、安江和良、安江

分遣所完成は11月

本村は昨年四月、可茂消防事務組合へ加入し、村の防火・防災体制を強化しました。

昨年十月には白川町内に東消防署が完成し、署長以下十三人の職員が白川町と本村を対象に予防、救急業務をおこなってきました。

そして、ことはいよいよ本村内に分遣所が建設されることになりました。工事の着工時期

昇、渡辺尚登、大坪孝由、安江正好、中島清彦、今井正英
▽第二分団—古田節也
▽第三分団—高井孝二、安江道則、牧野知幸、松岡昭信

〔新年度幹部構成〕

▽団長—桂川耕輔▽副団長—中島潮己、安江力男▽本部長—安江貞行▽訓練部長—安江誉▽ポンプ部長—桂川久己▽予防部長—山口直視▽本部係長—新田充(団旗手兼務)▽第一分団長—安江成喜▽副分団長—古田勝彦、安江竹司▽第二分団長—今井照夫▽副分団長—今井保都▽第三分団長—村雲和男▽副分団長—安江勝彦、大坪晴生▽ラッパ隊長—田口巽信▽副隊長—松岡重治

などはまだはつきりとしていませんが、この十一月完成を指すことになっています。

分遣所が完成すれば、常駐職員三人と、救急車一台が配属され、当面は救急業務と予防業務をおこなう予定です。

なお、昨年の四月号でタンク式消防自動車一台が配属されるとお伝えしましたが、都合により救急車に変更されました。

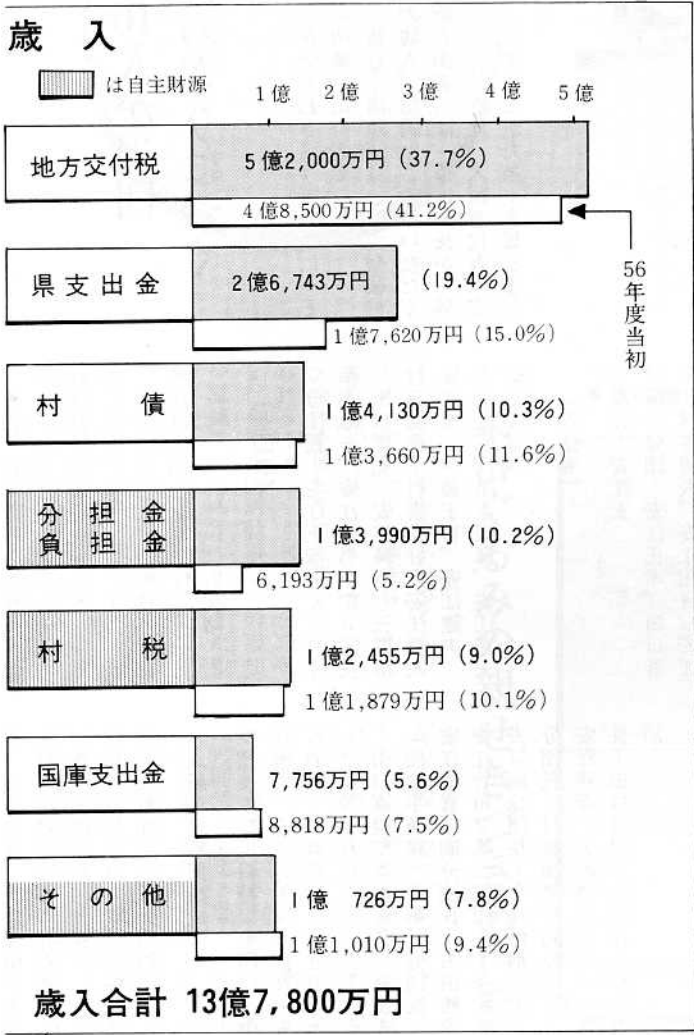
ひがししらかわ

八冊—安江柁廣(美濃加茂市) 同一冊—中島葵一(西洞)

■五月のおもな行事

- ※妊婦学級(後期)
*と き 5月12日 午前9時~11時30分
- *ところ 村民センター
- *対象者 妊娠後期の人
- ※不燃物収集
*と き 5月14日
- *ところ 村内各集荷場
- *ところ 村内各集荷場
- ガラス、金物類に分けて別々の袋に入れ、なわをかけてお出しください。
- ※犬の登録と狂犬病予防注射
*と き 5月17日、18日
- *ところ 村内15会場
- *費用 登録一頭 二、〇〇〇円 注射一回 一、五〇〇円
- 年一回の登録と年二回の予防注射は義務づけられています。犬を飼っておられるみなさんは必ず登録と注射を受けさせてください。
- ※三種混合予防接種(第二回)
*と き 5月20日 午後1時30分~2時
- *ところ 東白川病院
- *対象者 昭和53年4月~55年3月31日生まれの未接種者と追加のお出かけの際は体温を計るとともに、母子健康ガイドをご持参ください。

の当初予算 13億7,800万円



三月十五日に招集された第一回定例村議会で、昭和五十七年度予算が決まりました。一般、特別、事業会計を合わせた予算総額は十八億二千三百四十七万円（対前年度当初比一四・六％増）です。ことしから本格的なスタートを切る基盤整備を中心とする村づくり総合計画を最重要とし、厳しい財政の効率的な運用を基本としましたが、前年度当初に比べ一七・一％（約二億円）の伸びになっています。

分担金・負担金が大幅増

〇 歳入

歳入は、国庫支出金と財産収入、繰入金、諸収入などが減ったものの、ほかは前年度当初より伸びています。とくに分担金・負担金は二二・六％と極めて著しく伸びたのははじめ、県支出金も五一・八％の伸び率となっています。中で

も分担金は、ほ場整備事業をはじめ、神付地内の生活改善センター建設、柏本地内の花木栽培用温室の建設など、村づくりに関する諸施設の建設事業がスタートし、これに関係する受益者負担金があるためです。また、歳入財源の中で全体に占める割合が高い地方交付税は、前年度当初より七・二％伸びて

一人当たりの村税負担は三万三千元

村が独自で確保する村税や分担金・負担金などの自主財源は、合わせて歳入総額の四分の一に当たる三億四千四百五十一万円（二五％）です。前年度はこの値が二・一・三％ですから二・七％ほど伸びてはいますが、おもな理由はほ場整備などの分担金の伸びであり、地方財政安定の目安である三割自活には達せず、本年度も依然として苦しい村の台所といえます。

ちなみに村税は、歳入の九％に当たる一億二千四百五十五万円（前年度当初比四・八％増）が見込まれています。一世帯当たり換算すると約十三万三千元、住民一人当たりでは約三万三千元になります。

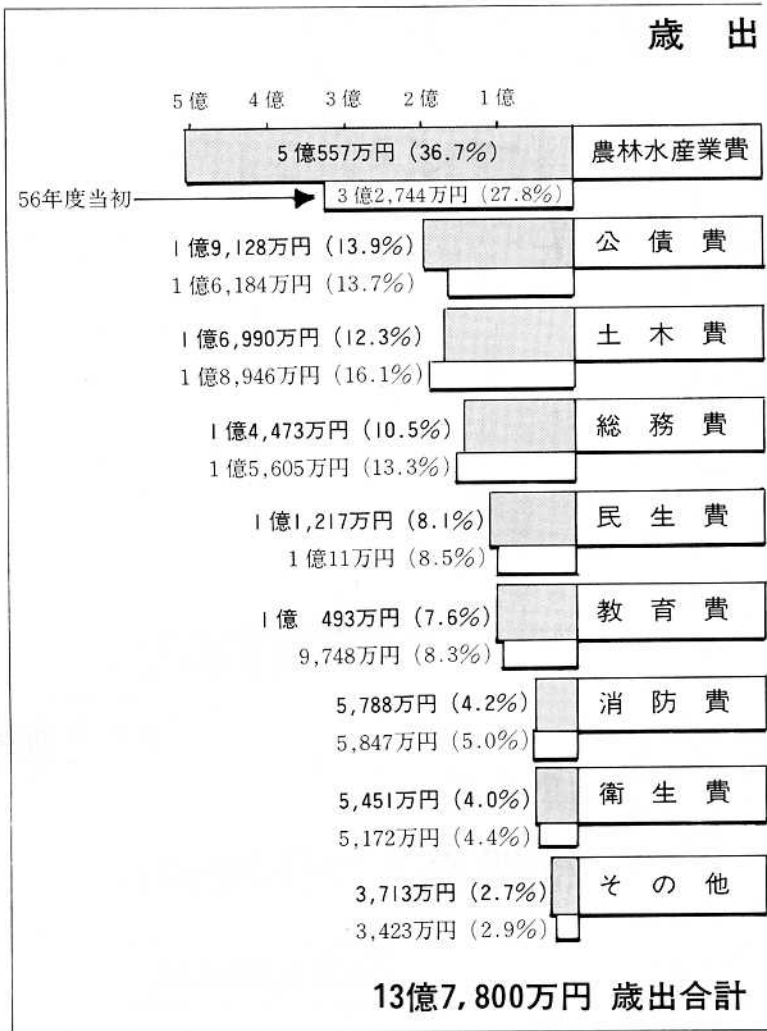
内容のおもなものは、固定資産税の六千六百二十四万円、村民税の三千五百七十一万円、たばこ消費税九百四十七万円などとなっています。

57年度

一般会計

村づくり計画重点に

歳出



5億超す農林水産業費

○ 歳出

歳出の中でいちばん比率の高いのは農林水産業費、歳出総額の三分の一以上（三六・七％）を占めています。

農林水産業費は、五十五年度までトップに位置していた教育

費とバトンタッチした形で、昨年からは第一位となっていますが、本年度は五四・四％の大きな伸び率により、二位以下の土木費や総務費などに、さらに大きな差をつけました。本年度は五億円の大台を超えています。

一方、農林水産業費の大幅な

土木費約10％減る

金、分担金・負担金のところで述べたように、村づくり総合計画に基づく県営畑総事業によるほ場整備のスタート、柏本地内の園芸組合が主体となって取り組む温室の建設、生活改善センターの建設、さらには日向の大林洞地区の県単土地改良事業などが新たに加わったためです。

伸びに対し、前年度二位の位置を本年度は公債費にゆずった土木費は、道路や橋の新設改良費が減ったため、前年度当初より一〇・三％ほど減額となりました。本年度のおもな事業は、村道神土角領線と上親田線の道路改良工事、欠の淵橋の取り付け道路新設などです。

公債費18・2％の伸び

公債費は、村の大きな公共事業、たとえば教育施設の建設や村道の改良工事などをこなすため、国や県、公庫などから借り入れたお金の元利償還金を入れています。いかえれば借金のことです。

ですから、この歳出はなるべく少ないにこしたことはないわけですが、財政規模の小さな本村が、住民福祉の向上のためにいろいろな事業をおこなうにはなくてはならないものです。

本年度は歳出の一三・九％に当たる一億九千二百二十八万円で、農林水産業費に次ぐ大きな歳出となっています。

前年度当初と比べての伸び率は一八・二％、金額にして約三千万円増えています。東白川小学校建設のために借り入れたお金の元利償還が本年度から始まることなどがおもな理由です。

特別会計

保険料10%近い引き上げ

国民健康保険

村の人口の約七割を対象に医療費の七割給付をはじめ、高額療養費、助産費など住民相互扶助精神のもとに運営されているのが国民健康保険特別会計です。グラフでおわかりいただけると思いますが、みなさんが病院

へかかられたときに支払われる三割の自己負担を除く保険者負担金、つまり国保会計が支払うお金は、ご覧のように毎年大きく伸びています。国保会計の財源は、国庫支出金の約六割と、みなさんの納め

られる保険料約三五%がおもなものです。本年度の歳入、歳出総額はそれぞれ二億四千三百六十万円、前年度当初と比較しての伸び率は四・五%です。しかし、国庫支出金の伸びは約二%と少なく、当然のことながら被保険者負担の増額を余儀なくされました。このため、保険料は前年度当初と比べ七百六十万円の増額、率にして一〇%近い引き上げとなっています。

除間伐費に77万円

分収造林

分収造林特別会計は、村が契約によって民有林に造林をおこない、伐採時に村六割、所有者四割の比率で収益を分け合うという制度です。

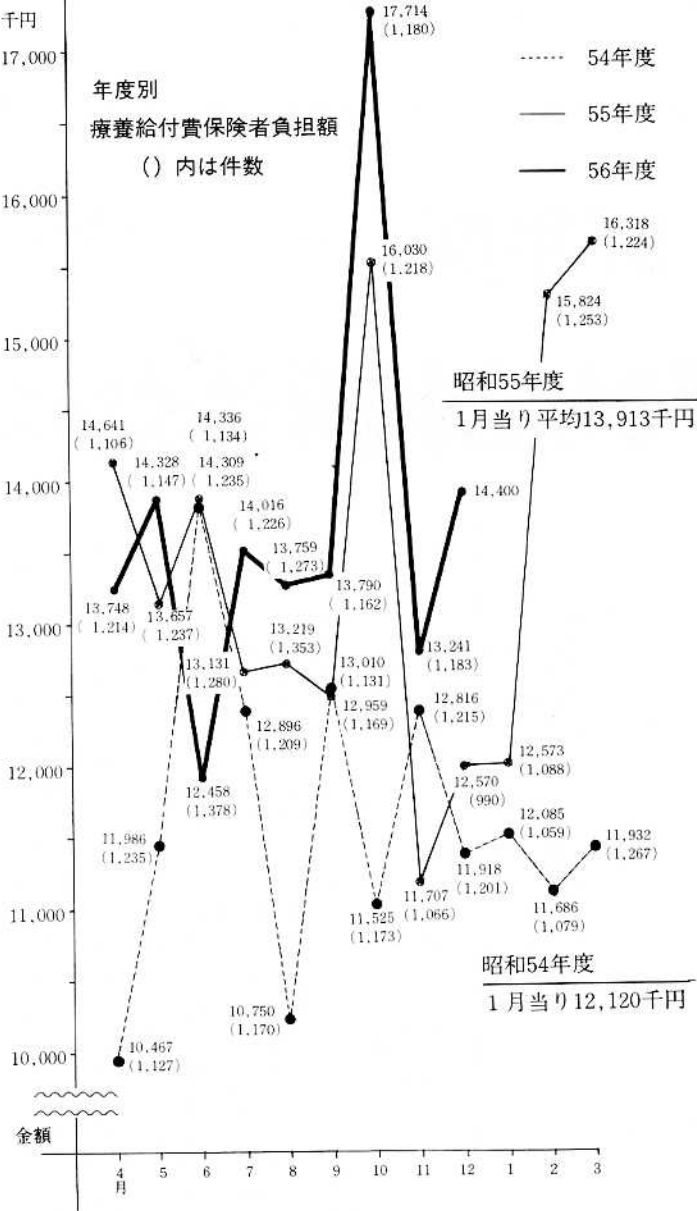
本年度の予定は、現在三十五ヘクタールある分収造林契約面積のうち奥の平ほか一件の除間伐など、管理費として七十七万円が計上されています。

採算経営を建て前として医療の適正化に努めています。五十五年度内に常勤医師の増員をはじめ、各種医療機器の導入（広報二六六号参照）などにより診療体制を強化しました。

さらに昨年は、食道、胃、十二指腸などの病理検査が可能でかいようななどの病理検査ができるガストロファイバースコープ、心疾患や成人病などの検診に使用するもので、正確で鮮明な心電図が得られる三素子自動心電計をはじめとする五種類の検査機器を導入し、各種検査に対する体制を強化しています。

また、二年間私たちの健康を守るため診療を続けていただいた田尻下先生が、県病院で診療にあたられることになりました。後任に、田尻下先生の後輩であり自治医大第三期生の浅野雅嘉先生（外科）が着任され、この四月から診療にあたっていただいています。

五十七年度の業務内容は、年間の患者数を入院、外来合わせて延べ三万四百人余りを予定、その医業収益を一億五千万円余り（対前年度当初比六・八%増）見込んでいます。しかし、収支総額では収入が一億七千六百万円、支出が二億百十万円で、二千四百九十万円の赤字予算となっています。



昭和55年度
1月当り平均13,913千円

昭和54年度
1月当り12,120千円

事業会計

機器導入で体制強化

東白川国保病院

本村唯一の医療機関として、東白川国民健康保険病院は立地条件や対象人口の減少など、不利な条件を克服しながら、独立

新年度予算とともに、各種の利用料などの引き上げが議会定例会で可決されました。中には世帯や使用方法などによって微妙に異なるものもありますが、おもなものを紹介しましょう。

各種利用料などが上がりました

体育施設

10か所ともアップ

これから夏に向かいスポーツシーズンを迎えますが、村内の体育施設の使用料が軒並引き上げになりました。

現在、村内の体育施設は十か所ありますが、中でも昨年の利用回数が多かった総合運動場内の野球場、中学校体育館、越原運動場の三施設を例に紹介してみよう。

各種スポーツ団体、サークルをはじめ婦人会、青年団、老人クラブなど社会教育団体が利用される場合、総合運動場（野球場）を半日使用すると千七百円（改正前千三百円）、一日二千円（同千五百円）、夜間三千三百円（同二千五百円）となりました。

越原運動場の場合は半日千円（改正前八百円）、一日と夜間がそれぞれ二千円（同千五百円）です。中学校体育館は半日七百円（同五百円）、一日と夜間はそれぞれ千三百円（同千円）となっています。

社会教育関係団体以外のかた

が利用される場合は、各施設ともこれより高い利用料となっていますが、施設により異なりますので、利用希望者は教育委員会事務局（有線二二七二番）へおたずねください。

保育料

10%近い引き上げ

村立の保育所へ入所する場合の保育料が引き上げられました。

保育料の算定は、前年分の所得税が課税された人と非課税の人、また、固定資産税が課税されたかどうか、さらには、それらの金額などによって細かなランクづけがされています。

たとえば、前年分の所得税非課税世帯で前年分の村民税のうち所得割課税額が五千円未満の場合、三歳以上児で月額六千四百円（前年度四千八百円）で約三三%の伸びになります。

ただし、これは固定資産税がかかっていない人の場合ですから、固定資産税の課税されている人はその額によって異なってきます。また、三歳未満児では若干高くなっています。

このように、保育料はそれぞれ

れの世帯の固定資産税、あるいは所得税の額によって異なってきますが、全体の引き上げ幅を算定してみますと、約一〇%近い引き上げになります。

分べん介助料

村内、外とも一万円増

東白川母子健康センターを利用される場合の手数料・使用料が昨年にひき続き引き上げられました。

一分べんについての介助料が四万四千円から一万円増額されて五万四千円になり、入所料をはじめ給食料、洗たく料などを含めた七日間の基本利用料は一万円（改正前十万円）です。村外に住所のある人も一万円上がって十三万円（同十二万円）になりました。

医師による検診は、これまで一回につき千円（村内の人は五百円）でしたが、今回の改正で村外千五百円、村内千円とそれぞれ五百円引き上げられています。

保育料および母子センターのことについてのおたずねは、民生課へお問い合わせください。

村民センター

サークル利用も有料に

そのほか、役場関係では村民センターの使用料が各部屋とも一〇%の引き上げと、これまで無料だった民踊クラブや茶道などのサークルでの使用が一率一回二百円徴収することになりました。

また、燃えるごみ（可燃物）のごみ袋代が一袋百円（改正前九十円）に、し尿くみ取り料金が七十二円まで六百八十円（同六百円）、一石千七百円（同千五百円）にそれぞれ上がりました。

病院の関係では、生命保険と生命共済診断書がこれまでの三千円から六百円上がって三千六百円に、交通事故診断書も三千円が二千円引き上げられ五千円になるなど、文書料が大幅に引き上げられています。

これまでは、みなさんがたに負担していただくものばかりでしたが、みなさんが受け取りされるものでは、国民健康保険の葬祭料が五千円引き上げられて一万五千円になっています。

春の教職員人事

野村小学校長ら10人が異動
新小学校長に細田先生

四月一日付で県下の教職員人事異動がおこなわれ、本村関係では小学校の野村正校長ら村の教育振興に尽くされた十人の先生が転出または退職されました。

後任には他町村または新任の先生が赴任され、今後村の学校教育をはじめとする教育全般にわたって尽くしていただくことになりました。

転出、転入、退職された先生は次のとおりです。(敬称略)
〔転出〕()内は転出先
◇中学校▽教諭―山田富彦(可児市西可児中) 安江駿(坂祝町坂祝中) 早崎隆文(大垣市星和中) 野村祐司(岐阜市青山中) 事務官―今井美保子(富加町富加中) ◇小学校▽校長―野村正(大垣市赤坂小) 教諭―高橋達也(美濃加茂市東中) 今井直樹(岐阜市長良中) 福島宣秋(川辺町川辺中) 安江光子(退職)

〔転入〕()内は前任地

◇中学校▽教諭―今井房雄(加子母村加子母中) 瀬口光昭(美濃加茂市西中) 福住久史(新採用) 国枝和子(新採用) 事務官―杉山誠人(新採用) ◇小学校▽校長―細田秀州(金山町東第一小) 教諭―三尾不二夫(岐阜市長良中) 鷺見俊彦(可児市土田小) 大沢里美(新採用)

村職員の人事異動

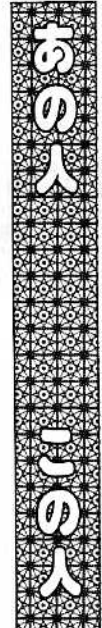
東白川村職員の人事異動が四月一日付(退職者は三月三十一日付)で発令されました。当分の間は不慣れのため、村民のみなさんにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご理解とご協力をお願いします。異動した職員は次のとおりです。()内は前職
◇課長級▽病院事務局長―高木孜(民生課住民係長) ◇係長級▽民生課住民係長―安江正彦(産業振興課振興第二係長) 産業

振興課振興第二係長―高木正範(総務課主査) 土木建設係長―村雲義英(土木建設課主査) 越原保育園園長(兼五加保育園長)―山口八恵子(越原保育園主任保母) ◇一般職員▽総務課―伊藤保夫(民生課) 神土保育園―安江芳香(越原保育園)

今井初美(越原保育園) 越原保育園主任保母―安江幸子(五加保育園) 五加保育園―今井まみ(神土保育園) 病院給食婦―中丸房子(総務課) 総務課―安江昌子(民生課)

〔退職者〕

安江正夫、今井佐枝子、今井恵利子、安江典子、荻田とめの(新採用)
浅野雅嘉、山田久陸、村雲喜美代



浅野雅嘉先生(医師)

二年間、村の病院医師として診療を続けていただいた田尻下先生にかわり、この四月から浅野雅嘉先生(外科)が着任されました。先生は自治医大の第三回生、田尻下先生の後輩でもあります。現在病院長の医師住宅に奥さんと二人暮らし。テニスや水泳、野球などスポーツはなんでもという根っからのスポーツマン。村に在る二年間に囲碁とつりをマスターしたいと話されます。抱負をたずねると「早くこの村になじんで診療にあたりたい。また、あまり力まずにやっています。」



傍嶋裕美巡査部長

警察官本来の職務のほか、趣味のビデオを使って老人の生きがい対策まで、幅広い活動で親しまれてきた傍嶋巡査部長が転出され、後任の村駐在警察官として傍嶋裕美(そばじまひろみ)巡査部長が着任されました。傍嶋部長は大垣市生まれでことし二十九歳。過去に赴任された警察官の中では最も若いお巡りさんです。高山署で二年半勤務されたのち、県警機動警ら隊でこの三月まで勤務され、そして本村へ赴任されました。「駐在所勤務ははじめて、一日



石川千秋農業普及員

「酒はほとんど飲めないが、ふんい気は大好き。そうした場所での人間関係も今後の普及指導に役立てたい」と語られるのは、七年間本村駐在の農業普及員として活躍いただいた小倉さんの後任、石川千秋農業普及員です。本村へは単身赴任で、村管住宅に入居して村の農業振興のために尽くしていただくことになりました。働き盛りの三十九歳。温かいご支援をお願いします。

新年度役員決まる

みなさんの盛り上げと
ご協力をお願いします

昭和五十七年度の各種団体長や役員が決まり、四月からみなさんの代表として、また世話役としてご苦勞願うことになりました。選ばれたみなさんは、仕事や家庭をもつての奉仕活動です。地域や団体ぐるみの盛り上げや協力がほしいものです。以下新年度の役員をご紹介します。〈敬称略〉

〔組長〕

◇神土▽大口―安江進▽平―小池正二▽下親田―伊佐治武司▽上親田―早瀬準学▽中通―田口

和彦▽神付―安江優▽中谷―樋口義成▽加倉尾―新田義男▽西洞―小池捷一◇越原▽曲坂―村雲春夫▽日向―笹俣昭▽陰地―安江浩▽栃山―笹俣仙介▽黒淵―高井銳三▽大明神―三尾信好◇五加▽柏本―栗本直一▽宮代―安江辰也▽大沢―小倉昭三▽下野―今井日出明▽久須見―古田好夫

〔PTA〕

◇中学校▽会長―青山吾郎(平)▽副会長―小池捷一(西洞)今井怜(柏本)松岡諄(陰地)◇小学校▽会長―今井邦光(平)▽副会長―安江房好(黒淵)安江謙次郎(平)

〔婦人会〕

▽会長―田口こと(加倉尾)▽副会長―今井りつ子(西洞)古田順子(柏本)▽会計―松島あさゑ(中谷)▽書記―藤井たゑ(加倉尾)▽神土支部長―安江利美(神付)▽越原支部長―村雲美代子(陰地)▽五加支部長―安江律子(柏本)

〔食生活改善推進協議会〕

▽会長―今井ちづ子(大口)▽副会長―安江八枝子(大口)▽書記―村瀬スミエ(平)▽神土支部長―村雲ふで(中通)▽越原支部長―桂川たづ(大明神)

▽五加支部長―今井政子(大沢)

〔青年団〕

▽団長―古田雅彦(平)▽副団長―安江任弘(平)安江弘武(柏本)▽事務局―安江恵(下野)安江佐和子(大明神)牧野浩子(陰地)▽会計―三戸美穂(大明神)▽神土分団長―小池健太郎(平)▽越原分団長―菊田政敏(陰地)▽五加分団長―熊崎基博(下野)

〔教育委員〕

▽委員長―高井好一(黒淵)▽委員―今井正己(大沢)田口耕作(中谷)木村成人(上親田)

〔社会教育委員〕

▽藤井助太郎(平)田口政春(西洞)田口りゑ(中谷)樋口春市(中谷)田口稔(平)熊沢健(黒淵)安江力男(下野)

〔公民館長〕

▽中央公民館―田口博(陰地)▽越原公民館―安江正男(日向)▽五加公民館―安江辰也(宮代)

〔公民館運営審議会委員〕

▽細田秀州(平)小池正二(平)神間一吉(平)村雲三千子(日向)菊田良香(曲坂)古田智登枝(久須見)早瀬智登子(上親田)

〔体育指導委員〕

▽今井猛夫(柏本)安倍徹(西洞)田口宗雄(神付)古田公平(西洞)安江祐策(大明神)

〔体育推進員〕

▽今井登(平)安江司(西洞)安江健二(下親田)安江政辰(平)安江正樹(神付)今井日出明(下野)松岡良典(日向)安江千章(陰地)古田雅彦(平)加藤寿子(栃山)今井嗣尚(平)村雲利治(柏本)安江敏治(日向)菊田良香(曲坂)内木正男(栃山)

〔青少年育成推進指導員〕

▽安江文吾(下親田)

〔青少年育成推進員〕

▽有賀政晴(平)小池捷一(西洞)山口直視(宮代)栗本重秋(柏本)田口勝司(大明神)

〔子ども会育成会長〕

▽安江啓次(神付)

〔子ども会地区委員長〕

▽神土―田口宗雄(神付)▽越原―安江信一(日向)▽五加―山口直視(宮代)

〔高校生保護者会会長〕

▽安江尚真(陰地)

〔ジュニアリーダークラブ〕

▽会長―古田そのみ(平)▽副会長(書記兼務)―樋口智美(西洞)▽会計―高木由香(黒淵)

〔区長〕

▽越原区長―安江久夫(日向)▽五加区長―村雲茂(柏本)

以上がおもな役員のみなさんです。中には一人でいくつもの役員を兼ねておられるかたもあり、ほんとうにご苦勞さまですが村づくりの推進役としてご活躍をお願いします。

♀女性広報モニターを増員

村では住民と行政の結びつきをより深めるため、昭和五十三年十月に五人の広報モニターを委嘱し、みなさんからの意見や要望の窓口として、また、地域での行事やニュースなど情報連絡先として活躍をいただけてきました。

そして、今年度は新たに女性モニター二人を増員する計画です。地域のできごとや行事など、お気軽にモニターへご連絡ください。なお、女性モニターは決まりしだい紹介する予定です。



通史編ができました 1家に1冊ぜひお備えを

村の歴史を集大成した新修東白川村誌がこのほど発刊になりました。今回発刊されたのは「通史編」で、先に発刊した「史料編」に続くものです。

「通史編」は村に残る古文書などをそのまま活字化した「史料編」とは違い、村のおいたちから、現代までのできごとや経済の流れなどを刻明につづったもので、文章表現がやわらかく、しかも写真や図、表なども多く盛り込み、さしずめ村を知るための事典ともいえます。

「史料編」があまりにもむつかし過ぎたのか、通史編の人気は今一歩のところですが手にしていただけ、その価値がはつきりとおわかりいただけだと思います。ぜひこの機会に一家に一冊お備えください。

広報雑記

❖厳しい経済情勢の中で、新しい村づくりを目指すための初年度となった昭和五十七年度の予算が決まりました。行政とみなさんとが一致団結して、住みよい村実現のためにがんばっていききたいものです。

❖四月は新入学の児童や生徒、それに新任の先生やサラリーマン一年生などが各分野に進出していきます。本村でも小、中学校へ新入生たちが通い、また先生がたも転入してこられました。一日も早く村に慣れて、活躍していただきたいものです。

新任の先生

多治見市 島田 節子

ここで、多治見市の島田節子さんからの便りを紹介してみましよう。

春という季節はいろいろなことを思い出させてくれます。

東白川では三つの小学校が統合されたと聞きますが、私が今思い出すのはあの田舎の小学校に赴任された新任の先生がたのことです。あの先生がたは今どうしていらつしやるのでしょうか。私の担任だった越原小学校のH先生の住宅には、時おり岐阜

市のほうからお母さんがおみえになっていました。そのお母さんがどんな気持ちで訪ねていらしたのか、また、それを迎え、見送る先生の気持ちはどんなだったか。当時の私たちには思いやる知恵もありませんでした。

あの少数数の田舎の小学校で恋愛し結婚された先生もありました。知らないうちに女の先生の名字が変わってしまったのかしな気がしたものでした。

思い出すことはいろいろありますが、ほんとうに今どうしていらつしやるのでしょうか。できればお会いしお話ししてみたい気持ちでいっぱいです。



あなたの作品をお寄せください。
・初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します。
・毎月末までに、神土田口良三宛に出してください。

春一番過ぎし朝の沈丁花雨をふくみて蕾鮮やかに

三戸 きり

道の辺の狸々ばかま紅ふみ桜前線除々に近づく

安江と志江

○お社の玉砂利回り黒き糞は神の実食みし轆の糞

伊藤 重雄

にぎやかに泊儼の鬼絵を競ひ描く幼き孫らは瞳かがやかす

樋口喜代美

○植樹終え帰へるさ木立に透かし見る辛夷の花の白の清しさ

安江 澄

○音立てて日毎新割る兄なりき言しひしままに今は世に亡し

小池 いちの

待ち侘びて母国に帰りし孤児たちの悲喜交々をテレビにぞ見る

村雲 伝三

病室の外は冷たく吹雪き居て遠き家路の空仄暗し

田口かづ子

○正確に祖国の唱歌うたひけり三十余年隔てたられし今

小池 弘子

耐えて来し暮しの五十路顧みて芽吹く若木に我は身を寄す

安江 守平

桜咲く春を迎えて遠退きし短歌の心よみがへりたり

安江すみよ

○敗けしゆえ置き去られたる孤児訪ね来て身寄りに逢はず還る哀しさ

加藤 公一

水温む庭の生質の片隅に群を離れし鯉は動かす

安江 幸

谷峽に古木の樹形を保ちつつ辨天桜はうす紅に咲く

田口 巽午

○風邪の子を励ましやりて山に來しが枝を打ちつつ気になりて居り

安江 香

○亡き母の名も掲げある郵便受消し難くして三年を過ぐ

田口 圭二

やや潤む月の下びになだれ咲く桜は白く花明りせり

田口 良三